

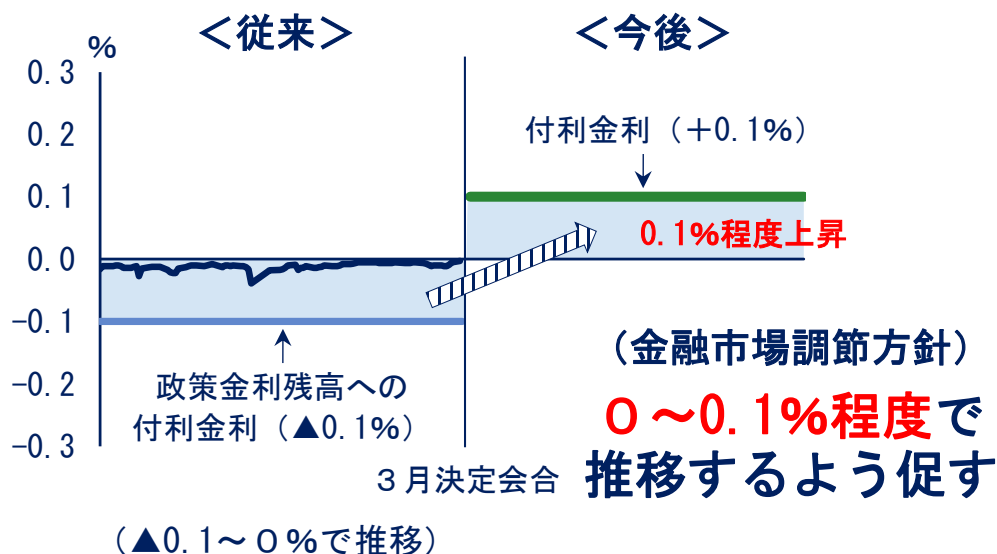
植田議員提出資料

令和6年4月2日

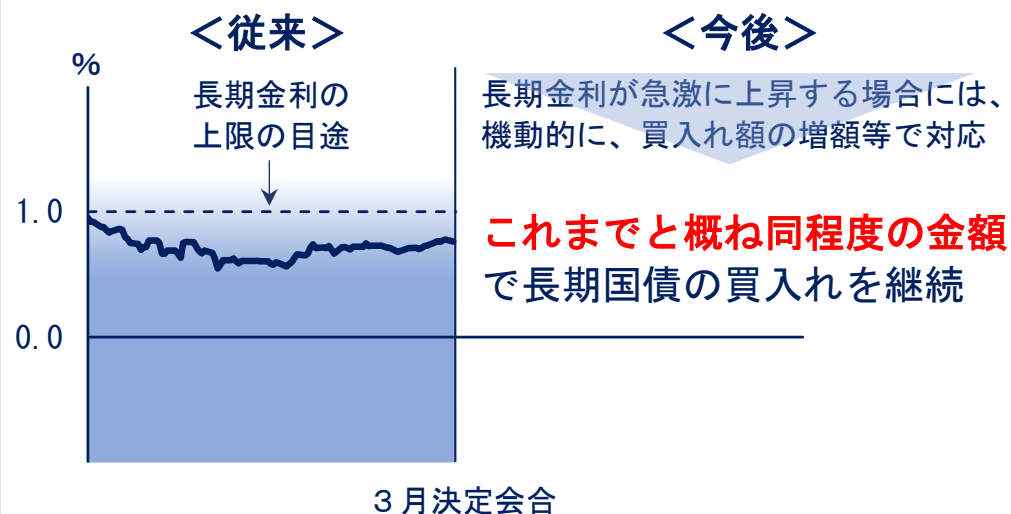
金融政策の枠組みの見直し（2024年3月）

- 最近のデータやヒアリング情報から、賃金と物価の好循環の強まりが確認されてきており、先行き、「展望レポート」の見通し期間終盤にかけて、**2%の「物価安定の目標」が持続的・安定的に実現していくことが見通せる状況**に至ったと判断。マイナス金利政策やイールドカーブ・コントロールなどの**大規模な金融緩和は、その役割を果たした**と考えている。
- 引き続き「物価安定の目標」のもとで、その持続的・安定的な実現という観点から、**短期金利の操作を主たる政策手段として**、経済・物価・金融情勢に応じて適切に金融政策を運営する。現時点の経済・物価見通しを前提にすれば、当面、緩和的な金融環境が継続と考えている。

短期金利（無担保コールO/N物）



長期金利

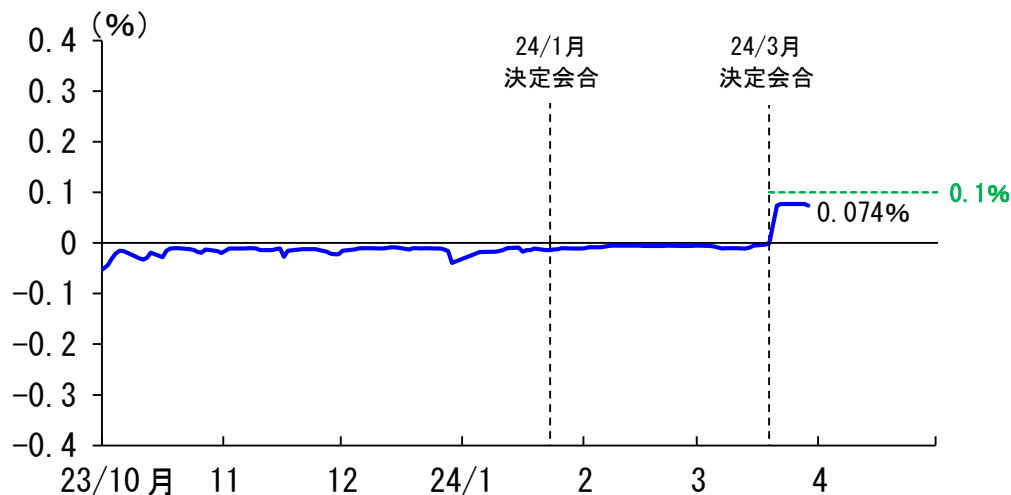


ETF・J-REIT

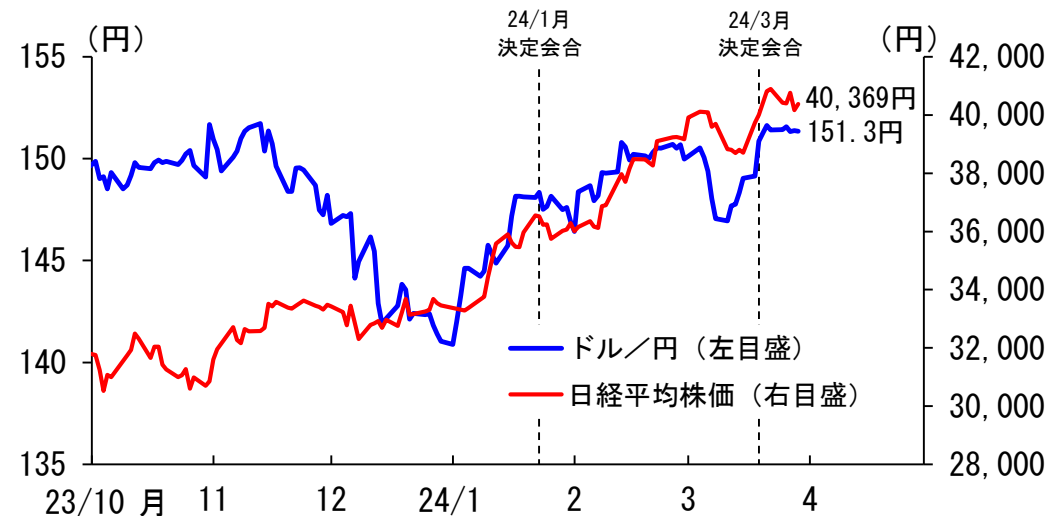
新規買入れを終了

金融市場、預金・貸出金利

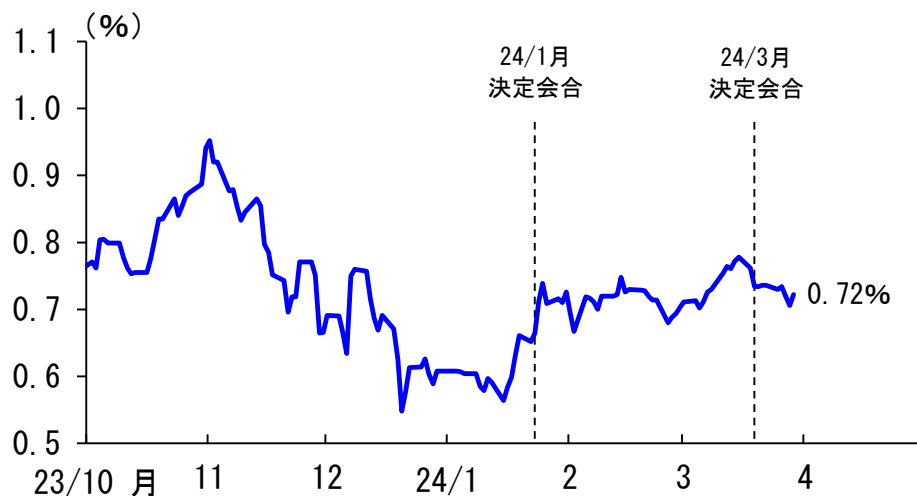
短期金利 (無担保コール0/N物)



為替・株価



長期金利



預金・貸出金利

(預金金利) ※一部大手行の例

普通預金金利	: 0.001%	→0.02%
定期預金 (1年)	: 0.002%	→0.025%
定期預金 (5年)	: 0.070~0.075%	→0.2%

(貸出基準金利)

短期プライムレート	: 不変	※一部大手行の例
TIBOR 3か月物	: 0.19%	→0.26%

(注) 1. 3/29日時点。
2. 右下図の各種金利は、3/18日→直近の変化。
(出所) 日本銀行、Bloomberg、大手行開示資料

(参考) 日本銀行の情勢判断

3月決定会合・公表文 (抜粋)

わが国の景気は、**一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復**している。

賃金を巡る環境を整理すると、企業収益は改善を続けており、労働需給は引き締まっている。こうしたもと、**本年の春季労使交渉**では、現時点の結果をみると、昨年につきしかりとした賃上げが実現する可能性は高く、本支店における企業からのヒアリング情報でも、**幅広い企業で賃上げの動き**が続いていることが窺われる。

物価面では、既往の輸入物価上昇を起点とする価格転嫁の影響は減衰してきているが、これまでの緩やかな賃金上昇も受けて、**サービス価格の緩やかな上昇**が続いている。

このように、最近のデータやヒアリング情報からは、**賃金と物価の好循環の強まり**が確認されてきており、先行き、見通し期間終盤にかけて、「**物価安定の目標**」が**持続的・安定的に実現していくことが見通せる状況**に至ったと判断した。